

さりげない支援による 情感認識システム

～ユーザの気づき創発を促すインタラクション～

山口 巧

インタラクション

ヒューマン
インタフェース

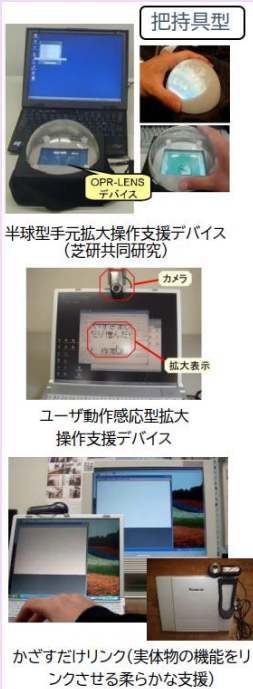
メディア理解

研究室の所在：電気情報工学科棟3階

・なぜこの研究をしているの？

「実世界や実空間における人間活動全般」を主な対象として、必要なときに必要な状況情報のみを獲得し、人間がストレスを感じることなく安心して自然な感覚で情報サービスを利用できる、状況を理解した賢く (Awareness)・さりげない (Ambient) 支援型ヒューマンインタフェースの実現を目指しています。

・具体的に今やっているのはどんなこと？

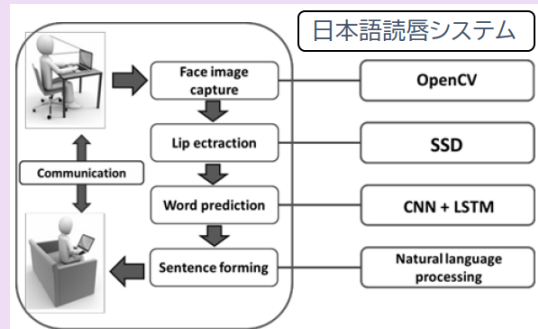


半球型手元拡大操作支援デバイス
(芝研共同研究)

ユーザ動作感応型拡大
操作支援デバイス

かざすだけリンク(実体物の機能をリ
ンクさせる柔らかな支援)

人間と機械(コンピュータ)との接点で、インタラクション技術(GUI/PUI/入出力デバイス)をベースにして、ユーザ動作のリアルタイムセンシングやユビキタスコンピューティング、視覚的特徴ならびに予測を含む動きの理解に機械学習などを活用する手法などを応用し、さまざまなインタラクション認識システムを検討しています。



・研究成果はどのようなモノやコトに役立つの？

エンゲルバート(マウスの発明者)のように、人間と機械の関わり方が大きく改善する新たな仕組み・自然な支援を進展させる一助につながります。